
吾輩は猫なんだけど。

棒人間

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

吾輩は猫なんだけど。

【Nコード】

N7947Z

【作者名】

棒人間

【あらすじ】

猫が語り、少年が語ります。

（前書き）

「吾輩は猫である」と内容被ったり無いですが、出だしとタイトルだけお借りしましたのでファンフィクションとしています。

良かったらどうぞ。

吾輩は猫である。

名前なんて無いに決まってるだろう。

あ、昨日近所の子に『にゃんさん』とか『みー』とか呼ばれた。
それで語り口をとある名作の様にしてみただけど威厳なんて出なかった。

あとでミケに文句言ってくる。

ところで本題に入りたい。

吾輩は黒猫。

そう黒猫。

何故それだけでこれ程に人生が狂うのか。

隣街のクロ吉はお婆さんに幸運を呼び込むとか言って拾われてった。
最近まで一緒だったミヤーは不幸を呼び込むとか言われて殺された。
どこかの国では黒猫を片っ端から殺していると古新聞の切れを見て知った。

なんと酷い世の中か。

人それぞれの思想や考えでこんなに落差があるなんて。

にゃーお、と一声鳴いてみた。

私の声は冬空に飲まれていった。

…黒猫の人生はこんなものかもしれない。
ここから見える星空の様な。

私は星に成れるか、黒い空になるか。

星が瞬いた。

ため息を1つ。

猫の気配だ。

それと人間も。

人に飼われた猫と人間か。

猫にとって飼われるのと野良とどちらが幸せなんだろう。
どちらにせよ『首輪』は外せない。外れない。

おっとつと、これ以上は人には理解出来ない領域だろう。
さっきの2人を観察しようか。

何やら飼い主が飼い猫に話しかけている様だ。

猫の言葉は分からないくせに。

少し近づいてみると猫はいい毛並みをしていて、人間も高そうな寝
巻きを着ている。

いいとこの子供と猫か。

さぞいい暮らし振りだろうて。
暫くすると人間が喋り始めた。

「なあ、ねこさん。僕は一体なんなんだろう。」

「家に帰れば親の期待に応えるべく頑張り、使用人達には影で蔑ま
れ、学校に行けば敬遠され。」

「黒猫のお前がいじめられているのを見つけた時、申し訳ない事に
嬉しかったんだ。」

「僕以外にも不条理な中に居る者がいるって。」

「だからお前を拾ったんだ。許してくれ。」

なんて身勝手な人間の言い分だろう。

私は憤りを感じたがそのまま聞き入った。

「ねこさん、人って奴は自分が最下位は嫌なんだよ。かけっこでもテストでもね。」

「下が欲しいんだ。だから虐めたり、蔑んだりする事で優越感を得る。」

「不幸があれば責任転換して誰かの性に、『厄病神』の性にしてみたいんだ。」

「神様って言うのも案外その程度の存在なのかもね。」

なんだか難しい話になっていき私のちっぽけな頭じゃ分からなくなってきた。

あの『ねこさん』も人間の戯言に付き合わされて大変だな。だが『ねこさん』は「にゃー」とも「みゃー」とも言わなかった。

「お前は僕の首輪を付けていてどうだ？僕はその首輪がとても苦しいと思うんだ。でも許して欲しい。」

「僕も首輪を付けられてる。逃げ出せないんだ。お前も道連れにして本当にすまない。」

「でもたまらなく苦しいんだ。お前がいなくなったら潰れてしまい

そうだ。だから僕のわがままをどうか聞いてやってくれ。」

彼は終始飼い猫を撫でながら何処か遠くを見て話していた。

『ねこさん』は優しく鳴いた。

私も釣られて鳴いた。

彼は私の方を見て、「おいで」と手で示し、皿とミルクを取り出した。

「ねこさん、この子も一緒に良いよね？」

彼は皿にミルクを注いだ。

私は『ねこさん』とミルクをひたすらに飲んだ。

特に会話は無い。

久々に飲んだミルクは中々だった。

私達が飲んでる間、彼は少し離れたところに座って空を見上げていた。

私はミルクのお礼に彼の手を舐め、去る事にした。

冬の風はとても冷たい。

（後書き）

これはファンフィクションに入るのかどうかが一番の悩みどころだったのは秘密です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7947z/>

吾輩は猫なんだけど。

2011年12月25日16時53分発行